

スタジオジブリ『ハウルの動く城』のメッセージ

本論文は、ジブリ作品『ハウルの動く城』を対象に、映像化するにあたり、原作である *Howl's Moving Castle* から、改変した内容と、それによって何を伝えなかったのか、明らかにすることを目的とした。キャッチコピーが「ふたりが暮らした。」であることから、『ハウルの動く城』のテーマは「愛」とであると、仮説をたてた。

1章では、原作 *Howl's Moving Castle* と、映画『ハウルの動く城』のストーリーを比較した。『ハウルの動く城』では、大きく5つの変更点があった。

2章では、主な人物の性格を分析した。『ハウルの動く城』のソフィーは自分の容姿に自信を持っておらず、自己否定的で消極的である。ハウルの性格を分析すると、『ハウルの動く城』のハウルは、そっけなく、人にあまり興味がない様子が描かれていた。

3章では、今までの宮崎作品のテーマについて考え、それをもとに、『ハウルの動く城』のテーマについて考察した。

その結果、『ハウルの動く城』は、心に何かを抱えていたハウルとソフィーが、愛することを知り、成長して幸せになるという、恋愛物語だということが分かった。「心がない」ハウルは、ソフィーを愛し、ソフィーのために、逃げずに立ち向かい、精神的な成長を遂げた。同時に、自分に自信が持てないソフィーは、ハウルへの愛を自覚したことで、自分に自信を持つ勇気を出し、呪いを解いた。1章で明らかになった変更点は、相手を思いやる気持ちをつくるプロセスに、役立っていることがわかった。

また、追加された戦争描写については、宮崎が今までの作品で「戦争」をテーマにした作品が多いことと、宮崎自身が「戦火の恋をかきたかった」と言っていることから、「戦争」は、ハウルとソフィーの恋愛物語を盛り上げる背景であり、あくまでも、社会に向けたサブプロットとしてのメッセージだと言える。これらのことから、『ハウルの動く城』のテーマは、「愛」とであると、結論付けた。

今回の論文では、原作と映画の比較分析が、十分にできなかったため、その点は今後の課題とした。

(小山 侑起 人間文化学科卒業生)

フリーペーパーというメディアの役割

近年、インターネットの普及により、情報発信の方法がこれまでとは大きく異なるようになった。SNSと呼ばれる Twitter や Facebook などのソーシャルネットワークサービスも普及し、多くの人が情報の発信を手軽に行えるようになってきているにも関わらず、これまでのフリーペーパーの枠にとらわれない新しいタイプのフリーペーパーが注目を集めるようになった。なぜ新しいタイプのフリーペーパーは注目を浴びているのだろうか。また、なぜこのようなフリーペーパーを発行するのだろうか。

本論文では、この新しいタイプのフリーペーパーに着目し、インターネットが普及し情報を簡単に入手、発信できるなか、フリーペーパーに関わる人々はなぜフリーペーパーというメディアを使うのか、フリーペーパーに何を求めているのか、どのようにフリーペーパーを利用しているのかを明らかにした。

まず、フリーペーパーと似ている紙媒体の ZINE とフリーペーパーを比較した。どちらも人との交流を目的としているという共通点があるが、フリーペーパーのほうが長期にわたって人と交流したいという想いが強いという傾向があることがわかった。

さらに、紙媒体であるフリーペーパーを刊行する理由として、雑誌のコンセプトなど紙などの表現にこだわりがあり、インターネットで情報を発信するよりも紙媒体での情報発信が向いているということや、フリーペーパーがもつ情報との接触の仕方の特徴があることがわかった。また、フリーペーパーという実際に触ることのできる質量のある「もの」にすることによって、情報自体に重みを感じたり、親近感や温かさを感じたりして欲しいという発行者側の意図があることが分かった。

このことによって、フリーペーパーに関わる人々は、情報を発信するときにフリーペーパーという実際に触ることのできる「もの」にすることで、直接顔を合わせない間接的な情報発信の仕方でも、インターネットにはない、実際の世界で「人とつながっている」という意識をフリーペーパーに求めているといえる。

(篠本 文彩 人間文化学科卒業生)